

# ほお〜つと



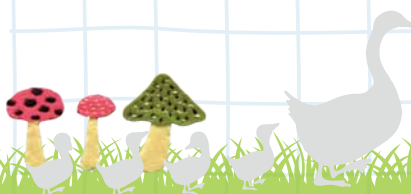
神戸ではこどもの吃音について、学期に一度「ほお〜つと」を開催しています。同じ思いの仲間に出あえること〜、それは子どもにとってもおとなにとっても、とても貴重なことです。出会いの広場『ほお〜つと』は主に「話しことば」のことで気になることがある子どもやその保護者・兄弟の方々が出あい、自分の思いや情報を交歓できる場です。

まずは“ほお〜つと”しましょう。難しいこと抜きでみんなでゲームをしたり、いろいろおしゃべりしたりしましょう。いつも参加されているのは幼児や1年生から、高校・大学生まで様々ですが、年齢に関係なく楽しく交流できる時間を持っています。また「ことば」のことや暮らしのちょっとしたヒントなどの情報交換もしています。



この日の『ほお〜つと』は、どもる子ども6人、親6人、兄弟2人、そして学校の先生2人の参加がありました。

まずは、緊張をほぐすためのゲームから始めます。「赤ちゃん」「おやじ」「かみなり様」と誰かが言うとそのジェスチャーをするゲームに「ウルトラマン」最後には「バルタン星人」のジェスチャーが加わりました。そのあとフルーツバスケットをして、みんなの気持ちが柔らかくなりテンションも上がってきたところで、子ども達は401号室で大人達は403号室でそれぞれに分かれて話し合いをしました。





## こども達の話し合い

まず「しりとりゲーム」をしました。  
 そのあと吃音についての話、8月に行われる  
 「吃音親子サマーキャンプ」についての話など  
 いろいろな話題ができました。



しりとり〜りす〜すずめ〜  
 めがね〜ねずみ〜  
 みみずく〜くじら〜



## 親達の話し合い

今日は先生が参加されていたので、先生と親の話し合いとなる場面が多く見られました。  
 親「先生には出来るだけ気を付けてもらって、子どもに吃音があることを知ってもらいたい。」  
 先生「知ることは大切だと考えているが、吃音が目立たない子どもの吃音には気づき難い。」  
 親「吃音が判りにくい場合でも、出来るだけ先生に気にしてもらえると、安心だし、嬉しい。」  
 先生「吃音を持つ子どもの事を考えるのは教師としても教育の一環として必要なことだし、吃音の問題ををとり上げるのは他の子ども達にとってもためになることだと考えている。」  
 親「子どもに吃音でも良いよそのままでも良いよと言いながらも、本人から吃音は辛いよいやだと訴えられた時はどうすれば良いんでしょうか？」  
 親「辛い気持ちに只々寄り沿うことが良いのでは。親子でコミュニケーションを取るのには良いことだと思う。」

